

別冊ステレオサウンド 2023年11月29日(発行・発売) ヴィンテージ・アナログ復刻版

Stereo Sound

Garrard | Thorens | Ortofon | EMT | SME | Decca | Shure | etc.

ヴィンテージ 保存版 アナログ

+レコードプレーヤー使いこなしのフルコース
+ガラード #301 / トーレンス TD124 の修復術



ヴィンテージ・アナログ 復刻版 販売価格 2,800 円

ガラード 301 やトーレンス TD124 をはじめ、
EMT927/930 や SME、そしてオルトフォンやデッカなど、
現在でもなお根強い人気を誇る
ヴィンテージ・アナログオーディオ機器。
こうした往年の名器たちの魅力や
ブランド・ストーリーを、この一冊に凝縮。
さらには微に入り細にわたる使いこなしのノウハウや
301/TD124 の入念なレストア法公開など、
まさに「本物志向」のアナログ・オーディオファイル
必携のバイブルだ。

CONTENTS

- Top-Sounding Vintage Analog-Audio Components
“心が躍る”アナログ・オーディオ往年の名器たち
- 往年のアナログオーディオ・ブランド物語
トーレンス、デッカ、オルトフォン、SME、シュアー、ガラード、EMT など、
往年のアナログオーディオ・ブランドの歴史と、
各ブランドを代表するモデルの特徴・魅力について、
ブランドごとに詳しくレポート。
- The Big Sound EMT 927Dst プロフェッショナル・ターンテーブル
愛機を語る——山中敬三
(季刊『ステレオサウンド』No.52 より抜粋・改訂版)
- トーレンスの歴史物語
山中敬三 (季刊『ステレオサウンド』No.67 より抜粋・改訂版)
- DECCA STORY 山中敬三
- SME STORY 山中敬三 (別冊『British Sound』<1983>より抜粋・改訂版)
- Ortofon HISTORY 1918-1994
編集部 (別冊『オルトフォンのすべて』<1994>より抜粋・改訂版)
- ガラードの歴史物語 編集部
- ヴィンテージ・アナログオーディオ機器の代表モデル試聴
- トーレンス Reference 瀬川冬樹
(季刊『ステレオサウンド』No.56 より抜粋・改訂版)
- オルトフォン SPU の歴史 海老澤 徹
- SPU シリーズ 8 モデルを聴く 新 忠篤／海老澤 徹／小原由夫
[掲載機種]

SPU-A, SPU-AE, SPU-G, SPU-GT, SPU Classic, SPU Meister Silver, SPU Royal G,
ESL C99 (季刊『管球王国』Vol.29 より抜粋・改訂版)

●シューアー・カートリッジの変遷 海老澤 徹

●シューアー歴代カートリッジを聴く 新 忠篤／海老澤 徹／小原由夫

[掲載機種]

M44-7, M44G, V15 Type II, V15 Type III, V15 Type IIIHE, V15 Type III MR, V15
Type IV, V15 Type V, V15 Type Vx MR (季刊『管球王国』Vol.30 より抜粋・改訂版)

●英デッカの歴代カートリッジについて 海老澤 徹

●英 DECCA の歴代カートリッジを聴く 新 忠篤／海老澤 徹／箕口勝善

[掲載機種]

MK- I Stereo, MK- I Mono, MK- II, MK- III, MK- V London

(季刊『管球王国』Vol.51 より抜粋・改訂版)

●オルトフォン SPU シリーズとモノラル MC 型徹底解剖 海老澤 徹

●SPU/CG25D に最適な昇圧トランス探し 新 忠篤／海老澤 徹／池田 勇

[掲載機種]

Ortofon T1000/SPU-T100, ADC KS16611-L1, Langevin 408A/402A, Peerless
4722/4629, WE618B/7A, JS No.384/251

(季刊『管球王国』Vol.46 より抜粋・改訂版)

■使いこなし／メンテナンス篇

●レコードプレーヤー使いこなしのフルコース 瀬川冬樹

レコードプレーヤーの上手なセッティング法から、

アンプとの接続のしかた、

負荷抵抗／負荷容量／入力感度切替とはどんな機能か、

これらを切り替えると音はどう変わるのか、

MC カートリッジの昇圧手段は何がいいか、

ハムや誘導ノイズを減らすアースの取り方は？

カートリッジとヘッドシェルの上手なつなぎ方、

トーンアームの上手な調整法、カートリッジとトーンアームのマッチングとは？

など、まさに微に入り細にわたる、

レコードプレーヤー使いこなしのテクニック／ノウハウの集大成版!!——全 62 ページ

(季刊『ステレオサウンド』No.39/40 より抜粋・改訂版)

●トーレンス TD124／ガラード 301 ターンテーブル修復術

現在でも愛用者が多いヴィンテージ・ターンテーブル——トーレンス TD124 とガラード 301。

どちらも甲乙つけ難い魅力あふれるモデルだが、

製造が中止されてすでに数十年が経つ。

したがって、その多くは本来の性能を発揮できない状態にあるのでは？
あるいは毎日のように稼働させているとしても、
最良のコンディションで動作しているとは限らない。
ましてや、もう1年以上もクリーニングや注油などの保守点検を怠っているとしたら、
なおさらだ。

それでは、せっかくのハイクオリティ・ターンテーブルも
宝の持ち腐れというものである。

本欄では、トーレンス TD124 とガラード 301 について、
それぞれの修復のベテランに、実際に修復をしていく過程と、
そのときどきのポイントについて解説していただいた。

(季刊『管球王国』Vol.35 より抜粋・改訂版)